

## 歯科医師臨床研修必修化後の北海道大学病院における 歯科研修医の動向について

飯田 俊二<sup>1)</sup> 田中 佐織<sup>1)</sup>  
高師 則行<sup>1)</sup> 井上 哲<sup>2)</sup>

**抄録：**歯科医師臨床研修が2006年に必修化され、10年以上が経過した。本研究では、北海道大学病院の歯科研修医の採用状況や研修終了後の進路などの動向について、平成18年度から平成27年度までの10年間にわたり調査した。歯科医師臨床研修マッチングプログラムがフルマッチしたのは過去10年中、4回あった。実際の採用者数をマッチ者数で除した就業率は、すべての年度でその年の歯科医師国家試験の合格率よりも高かった。歯科研修医が所属する診療科に偏りがあったものの、10年間の合計研修医数が0の診療科はなかった。出身大学別では北海道大学出身者の割合が年々減少傾向である一方、他大学出身者の割合は増加しつつある。1年間の研修終了後の進路先としては、北海道大学・他大学出身者ともに大学院に進学する者が44%と多く、また一般開業医・病院歯科勤務する者は38%であった。

以上より、北海道大学病院には優秀な学生が歯科研修医として就業してきており、その中で北海道大学卒の学生の割合は年々減少していた。また1年の研修終了後の進路としては、大学院進学と一般開業医・病院歯科勤務の二極化が見られた。

**キーワード：**歯科医師臨床研修 必修化 研修終了後の進路

### 緒言

歯科医学・歯科医療技術の進歩や国民のニーズの多様化に伴い、学部教育内でのそれら知識・技術の習得が困難になり、1996年に厚生省（当時）が歯科医師法の一部改正を行い、歯科医師臨床研修の1年以上の努力義務を制定した<sup>1)</sup>。その後の2000年の法改正により<sup>2,3)</sup>、2006年から歯科医師臨床研修が必修化された。各大学・臨床研修施設においては、様々なプログラムや指導方針が存在し、それぞれの特徴が出されているが、北海道大学病院（北大病院）では、必修化当初より、1年間管理型施設で研修を行う単独型と、半年間管理型・半年間協力型施設で研修を行う複合型プログラムを設定し、研修指導を行ってきて10年が経過した。北大病院の特色としては歯科研修医が希望の臨床系の診療科に所属し、その診療科を足場にローテーション研修を行う形をとってきた。今回、より適切な研修指導を行うため、必修化後10年間に亘り歯科研修医の北大病院での採用状況や修了後の進路などの動向を調査し、興味ある結果が得られたので報告する。

### 対象および方法

北大病院歯科医師臨床研修プログラムは、単独型および複合型プログラムの2つに大別される。すべての

歯科研修医は4月にオリエンテーション、前準備研修を行った後、単独型は管理型臨床研修施設（北大病院）において歯科研修医が希望する各診療科に所属し、そこを足場にして他科のローテーション研修や自科研修を行う。

一方複合型は、約5か月間北大病院、残り5か月を協力型臨床研修施設で研修を行い、3月に再度すべての歯科研修医が北大病院にて研修のまとめを行う。

今回の報告は歯科研修医が必修化された2006年以降、平成27年度までの10年分の歯科研修医採用までの申請書類および修了後の進路調査などを集計し、分析を行った。

#### 1. 対象

本研究の対象は、歯科医師臨床研修必修化後の平成18年度から平成27年度までの北海道大学病院歯科医師臨床研修プログラムに在籍した者で、各年度の募集および採用状況（募集定員、採用試験受験者数、最終マッチング者数、採用者数）は表1の通りである。

#### 2. 分析項目

1) マッチング者率：募集定員に対して、実際にマッチングした歯科研修医数の割合を百分率で表した。

2) 就業者率：マッチング者数に対して、採用した（歯科医師国家試験に合格し歯科研修医として北大病院へ就職した）者の割合を百分率で表した。なお、二

<sup>1)</sup> 北海道大学病院歯科診療センター口腔総合治療部（主任：井上 哲教授）

<sup>2)</sup> 北海道大学大学院歯学研究院臨床教育部（主任：井上 哲教授）

<sup>1)</sup> Division of General Dentistry, Center for Dental Clinics, Hokkaido University Hospital (Chief: Prof. Satoshi Inoue) Kita 13 Nishi 7, Kita-ku, Sapporo City, Hokkaido 060-8586, Japan.

<sup>2)</sup> Section for Clinical Education, Faculty of Dental Medicine, Hokkaido University (Chief: Prof. Satoshi Inoue)

表 1 募集および採用状況

| 年度   | 募集定員 |    | 採用試験<br>受験者数 | マッチング者数 |    | 採用者数 |    |    |
|------|------|----|--------------|---------|----|------|----|----|
|      | 単独   | 複合 |              | 単独      | 複合 | 単独   | 複合 | 計  |
| H18* | 45   | 30 | 112          | 45      | 30 | 40   | 27 | 67 |
| H19  | 35   | 35 | 100          | 35      | 24 | 33   | 25 | 58 |
| H20  | 40   | 30 | 87           | 40      | 25 | 37   | 22 | 59 |
| H21  | 40   | 30 | 105          | 40      | 27 | 33   | 20 | 53 |
| H22  | 40   | 30 | 106          | 40      | 27 | 34   | 23 | 57 |
| H23* | 40   | 30 | 124          | 40      | 30 | 35   | 16 | 51 |
| H24  | 40   | 30 | 111          | 40      | 28 | 36   | 16 | 52 |
| H25* | 40   | 30 | 118          | 40      | 30 | 31   | 22 | 53 |
| H26* | 40   | 30 | 113          | 40      | 30 | 38   | 17 | 55 |
| H27  | 40   | 30 | 88           | 37      | 13 | 25   | 12 | 37 |

\*マッチングが100%の年度

表 2 マッチング者率および就業者率

| 年度  | 定員<br>(人) | マッチング<br>者数(人) | マッチング<br>者率(%) | 二次募集<br>採用者数<br>(人) | 採用者数<br>(人) | 就業者率<br>(%) | 国家試験<br>合格率(%) |
|-----|-----------|----------------|----------------|---------------------|-------------|-------------|----------------|
| H18 | 75        | 75             | 100            | 0                   | 67          | 89.3        | 80.8           |
| H19 | 70        | 59             | 84.3           | 6                   | 58          | 88.1*       | 74.2           |
| H20 | 70        | 65             | 92.9           | 2                   | 59          | 87.7*       | 68.9           |
| H21 | 70        | 67             | 95.7           | 3                   | 53          | 74.6        | 67.5           |
| H22 | 70        | 67             | 95.7           | 3                   | 57          | 80.6*       | 69.5           |
| H23 | 70        | 70             | 100            | 0                   | 51          | 72.9        | 71.0           |
| H24 | 70        | 68             | 97.1           | 1                   | 52          | 75.0        | 71.1           |
| H25 | 70        | 70             | 100            | 0                   | 53          | 75.7        | 71.2           |
| H26 | 70        | 70             | 100            | 0                   | 56          | 80.0*       | 63.3           |
| H27 | 70        | 50             | 71.4           | 1                   | 37          | 72.0        | 63.8           |

\*その年の全国歯科医師国家試験の合格者を10%以上上回った年度

次募集で採用した者の数は含まない。

3) 各診療科別歯科研修医数内訳：単独型・複合型に分け、年度ごとに各科別に表した。

4) 研修医の出身大学別割合：就業した歯科研修医の卒業大学を北海道大学（北大）と他大学に大別し、年度ごとに比率で表した。

5) 研修修了後の進路

研修修了時に行った研修修了後状況等調査書に研修修了後の進路を記入してもらい、平成18年度から27年度までの10年間の合計人数（543名）を進路ごとの割合で分析した。

## 結 果

### 1. 募集および採用状況

各年度の状況を表1に示した。北大病院歯科臨床研修医の募集定員は平成18年度には単独型・複合型合わせて75名であったが、平成19年度以降70名に変更し平成27年度に至っている。受験者は平成20年度、27

年度以外はすべて100名を超えていた。特に、平成27年度は採用者数が10年間の中で最も少ない数であった。

マッチング者率（表2）は、100%の年が10年間で4回、90%台が4回、80%および70%台がそれぞれ1回ずつであった。またマッチング者率が100%以外の年には二次募集にて採用された者が若干名あった。

就業者率はこの10年間を通して70～90%の間で推移しており、各年度の全国歯科医師国家試験合格率（国家試験合格率）と比較した結果、すべての年度において、国家試験合格率よりも高かった。さらに、国家試験合格率よりも10%以上高い年度が4回あったものの、平成23年度から25年度まではその年の国家試験合格率に近い就業者率であった。

### 2. 各診療科の研修医内訳（表3）

必修化当初は13診療科で歯科研修医の受け入れを行ってきたが、平成21年度より口腔総合治療部の受け入れが始まり、14診療科での受け入れ態勢となっている。しかし、診療科により歯科研修医数に差があり、

表 3 各診療科の研修医数内訳

| 診療科目    | H18 |    | H19 |    | H20 |    | H21 |    | H22 |    | H23 |    | H24 |    | H25 |    | H26 |    | H27 |    | 合計 |    |
|---------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|----|----|
|         | 単独  | 複合 | 単独  | 複合 | 単独  | 複合 | 単独  | 複合 | 単独  | 複合 | 単独  | 複合 | 単独  | 複合 | 単独  | 複合 | 単独  | 複合 | 単独  | 複合 | 単独 | 複合 |
| 予防歯科    | 2   | 2  | 4   | 3  | 1   | 3  | 3   | 1  | 1   | 2  | 1   | 2  | 2   | 0  | 1   | 0  | 2   | 0  | 0   | 0  | 17 | 13 |
| 歯内歯周治療  | 6   | 2  | 10  | 7  | 9   | 1  | 3   | 3  | 4   | 1  | 8   | 3  | 9   | 3  | 6   | 4  | 6   | 5  | 6   | 2  | 67 | 31 |
| 冠橋義歯補綴  | 1   | 3  | 0   | 2  | 4   | 3  | 4   | 3  | 6   | 1  | 0   | 3  | 1   | 1  | 1   | 3  | 0   | 1  | 0   | 1  | 17 | 21 |
| 高齢者     | 4   | 5  | 5   | 4  | 3   | 7  | 2   | 6  | 0   | 6  | 2   | 1  | 3   | 0  | 2   | 0  | 4   | 2  | 6   | 0  | 31 | 31 |
| 保存修復    | 2   | 2  | 3   | 3  | 2   | 2  | 4   | 0  | 5   | 5  | 5   | 1  | 1   | 4  | 3   | 5  | 5   | 3  | 2   | 2  | 32 | 27 |
| 有床義歯補綴  | 4   | 3  | 1   | 3  | 2   | 2  | 4   | 1  | 4   | 3  | 2   | 1  | 6   | 3  | 5   | 2  | 4   | 2  | 1   | 1  | 33 | 21 |
| 矯正歯科    | 6   | 0  | 3   | 0  | 3   | 0  | 3   | 0  | 4   | 1  | 5   | 2  | 4   | 0  | 5   | 5  | 5   | 1  | 2   | 1  | 40 | 10 |
| 小児歯科    | 1   | 1  | 3   | 1  | 2   | 0  | 2   | 0  | 3   | 3  | 2   | 1  | 0   | 0  | 2   | 0  | 2   | 1  | 1   | 2  | 18 | 9  |
| 口腔内科    | 8   | 4  | 2   | 0  | 2   | 2  | 2   | 1  | 3   | 0  | 3   | 0  | 6   | 0  | 3   | 0  | 4   | 2  | 1   | 1  | 34 | 10 |
| 口腔外科    | 4   | 1  | 1   | 1  | 4   | 2  | 5   | 4  | 0   | 0  | 4   | 2  | 4   | 4  | 2   | 3  | 5   | 1  | 1   | 0  | 30 | 18 |
| 歯科放射線   | 0   | 0  | 0   | 1  | 0   | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 1   | 0  | 1   | 0  | 2   | 0  | 4  | 1  |
| 顎関節     | 1   | 3  | 0   | 0  | 3   | 0  | 1   | 0  | 1   | 0  | 0   | 0  | 1   | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 7  | 3  |
| 歯科麻酔    | 1   | 1  | 1   | 0  | 2   | 0  | 0   | 0  | 3   | 0  | 3   | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 1   | 0  | 3   | 2  | 14 | 3  |
| 口腔総合治療部 | -   | -  | -   | -  | -   | -  | 0   | 1  | 0   | 1  | 0   | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 0  | 2  |

各診療科名は、平成 18 年度当時のものを表す。数は人数を示す

(人)

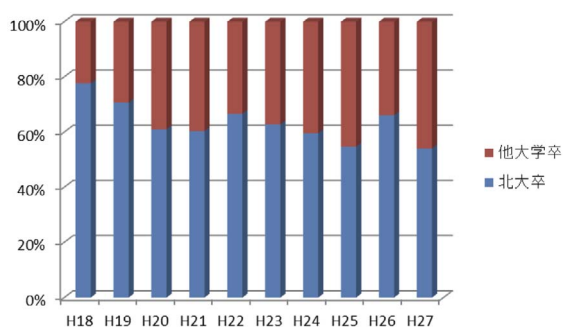


図 1 歯科研修医の出身大学別割合  
採用した研修医の出身大学別割合の推移について

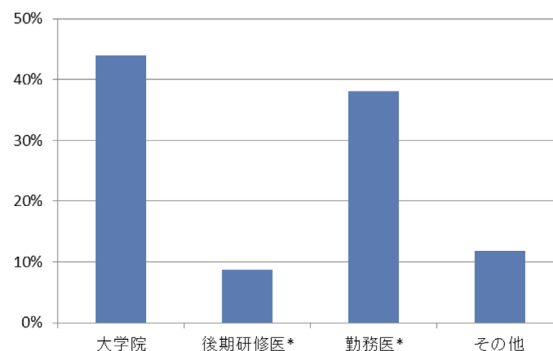


図 2 研修修了者の研修修了後進路  
平成 18 年度～27 年度の修了者 543 名の研修修了後の行き先についての割合を示す  
\*後期研修医には 17 名 (3.1%)、勤務医には 5 名 (0.9%) の社会人大学院生を含む

診療科によっては受け入れ数 0 の年度も存在した。

各診療科別の単独型・複合型の歯科研修医数内訳は表 3 の通りである。この 10 年間の合計在籍者数を比較すると、募集定員の多い単独型の在籍者数が複合型よりも多い診療科がほとんどであるが、冠橋義歯補綴科のみでその数が逆転しており、高齢者歯科は同数であった。10 年間で 50 名以上の歯科研修医が在籍した診療科が 5 つある一方で、所属研修医が 1 桁の診療科も散見された。過去 10 年の間に、1 人も歯科研修医が在籍しなかった診療科はなかった。

3. 歯科研修医の出身大学別割合 (図 1)

年度ごとの出身大学別割合の推移では、北大出身の歯科研修医数の割合が平成 19 年度から 21 年度にかけて減少しており、平成 22 年度に 1 度増加したが、その後平成 25 年度まで減少した。平成 26 年度に再び増加したが、平成 27 年度は減少を示し、北大出身者 (54%) と他大学出身者 (46%) はほぼ同じ割合となっている。

4. 歯科研修医の進路状況

平成 18 年度から 27 年度までの研修修了者計 543 名の修了後の進路についてアンケート調査した結果を図 2 に示した。北海道大学および他大学大学院に進学、あるいは社会人大学院生兼後期研修医で大学院に進む (他大学を含む) 者の割合が全体の 44.0% と最も多かった。次に 38.1% の者が一般開業医・病院歯科の勤務医として就職していた。その中には複合型プログラムの複合型協力施設にそのまま就職するもの 26 名 (4.8%) を含んでいた。さらに、その他の進路として研究生や他大学医員となった者の割合が 11.8% であった。

考 察

歯科医師を取り巻く環境は年々厳しくなっている。まず、若年者の相対的数の減少、およびその若年者の

むし歯数の減少<sup>4)</sup>があげられる。一方で高齢者数の増加、残存歯数の増加、平均寿命と健康寿命の差<sup>5)</sup>も大きな問題である。また今後人口が減少していくと予想されている<sup>6)</sup>ことによる、患者数の減少も考えられる。このような厳しい状況の中で、在宅診療の必要性に重点が置かれ、地域包括ケアシステムの構築が叫ばれ、歯科医師が診療する対象の患者は健康者タイプではなく、高齢者タイプへとシフトしつつある<sup>7)</sup>。多様なニーズに対応しうる歯科医師を輩出するべく<sup>8)</sup>、歯科医師臨床研修医制度が始まり、制度は5年ごとに改訂され<sup>9)</sup>、現在に至る。歯科医師臨床研修制度に基づき歯科研修医に対して適切な指導を行うにあたり、歯科研修医志望者のマッチング状況や歯科研修医の研修修了後の進路の動向を知るため、本研究のように過去の動向を分析する<sup>10)</sup>ことは、社会に優秀な歯科医師を輩出するために有効だと考えられるが、現在までのところ同様の調査報告は少ないのが現状である。そこで本研究では、必修化後10年間にわたり歯科研修医の北大病院での採用状況や修了後の進路などの動向を調査分析した。

まず募集定員数(表1)についてであるが、当初歯科医師臨床研修制度が必修化され募集定員を設定するにあたり、大学の入学者定員数が当時60名であり、北大卒業生数と他大学からの申請者数を考慮し単独型45名、複合型30名、計75名で開始した。平成19年度には単独と複合を同数にしたものの、単独型が申請者数も多く人気も高いと考えられたので平成20年度には単独型40人、複合型30人とし、それ以来その定員のままで平成27年度に至っている。

平成20年度と平成27年度の受験者数が少なかったが、その理由として、その年度の北大出身の6年生も少ない年度であったためと考えられた。

北大への歯科医師臨床研修の希望者は、必修化から10年間においてマッチング者率100%であったことが4回、90%台が4回と高い充足率が示された。また就業者率は同年の歯科医師国家試験の合格率を10%以上上回る年度が4回あり、10年間を通して、歯科医師国家試験合格率よりも高かったことから、優秀な歯科研修医の応募があったと思われる。ただ平成27年度は採用者数、就業者とも10年間の中で最も少ない数となった(表2)。これには北大出身者の数が少なかったこと、北海道以外の出身者が本州に戻る、いわゆる本州志向の歯科研修医数が多かったことなど様々な要因が考えられた。

北大病院における歯科研修医は、1週間のうち半分は総合診療として保存補綴治療を中心とした高頻度治療を行い、残り半分は研修医が足場を置いている各診療科の外来での診療研修を日々行っている。そこで歯科研修医の希望した診療科を調べた結果(表3)、10

年間で50名以上の歯科研修医が在籍した診療科が5つ(歯内歯周治療、高齢者、保存修復、有床義歯補綴、矯正歯科)ある一方で、所属歯科研修医が1桁の診療科も散見された。このような差は診療科の指導医の多寡や、診療科の専門性、研修医の興味によることなどが考えられた。

出身大学を調べた結果(図1)、北大卒が当初は大部分を占めていたのが、その割合が徐々に減少し、平成27年度は北大卒と他大学卒の割合がほぼ同じになった。これは北大歯学部の学生数定員が60名から53名に変更されたことに伴う卒業生数の減少がその要因のひとつとして考えられる。またインターネットの普及や、北大病院のホームページの改良充実なども功を奏しているのではないかと考えられる。さらには、北大の東京オフィスで首都圏の希望学生への説明会を行ったことなどが、学生にとって情報をより得やすくなったのではないかと考えられる。

北大病院で研修を修了した歯科研修医の進路としては、専門医養成や研究心の育成を行うことを主眼としている大学院進学率が、北大および他大学への者も含めて、最も高く50%弱であった。また一般開業医・病院歯科に就職する者の数も二番目に多く40%近くあり、研修修了後進路についての考え方が二極化していることが示唆された。

北大病院の歯科研修医が大学院へ進学する割合が高いのは、北大病院特色である歯科研修医が各診療科に足場を置いて研修するという方針から、より専門的な臨床や研究内容の詳細を身近に体験できる<sup>11)</sup>ことが大学院進学に功を奏していると思われた。

今後は今回の分析結果を参考に、さらに充実した研修ができるよう新たなプログラムを策定するなどの改善を計りたいと考えている。

## 結 論

平成18年度に歯科医師臨床研修制度が必修化され10年が経過した。北大病院は100%マッチングすることも約半数あり、また就業者も高い状態を維持している。しかしながら北大卒の歯科研修医数は減少を示し、1年間の研修修了後は大学院に進学する者と一般開業医に就職する者に二極化していることが示唆された。

利益相反の開示：本研究に関連して、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

## 文 献

- 1) 厚生労働省. 歯科医師法の一部を改正する法律(抜粋)第三章の二 臨床研修. <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/shikarinsyo/hensen/01.html> (最終アクセス日2018.4.30)

- 2) 厚生労働省. 医療法の一部を改正する法律 (抜粋). <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/shikarinsyo/gaiyou/kanren/kaisei.html> (最終アクセス日 2018. 4. 30)
- 3) 高田淳子. 臨床研修 1. 臨床研修制度の歴史と仕組み. 歯科医学教育白書 2014 年版 (2012 ~ 2014) 2015 : 120-123.
- 4) 文部科学省. 学校保健統計調査 平成 29 年度学校保健統計調査結果. P9, 10 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa05/hoken/kekka/1268813.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/kekka/1268813.htm) (最終アクセス日 2018. 4. 30)
- 5) 厚生労働省. 平均寿命と健康寿命をみる 2. [http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/chiiki-gyousei\\_03\\_02.pdf#search=%27%E5%B9%B3%E5%9D%87%E5%AF%BF%E5%91%BD+%E5%81%A5%E5%BA%B7%E5%AF%BF%E5%91%BD+%E5%B7%AE%27](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/chiiki-gyousei_03_02.pdf#search=%27%E5%B9%B3%E5%9D%87%E5%AF%BF%E5%91%BD+%E5%81%A5%E5%BA%B7%E5%AF%BF%E5%91%BD+%E5%B7%AE%27) (最終アクセス日 2018. 4. 30)
- 6) 国立社会保障・人口問題研究所 (2008). 『日本の将来推計人口 (平成 20 年 12 月推計)』日本の将来推計人口—平成 18 年 12 月推計について. [http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/suikai07/P\\_HP\\_H1812\\_A/index.html](http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/suikai07/P_HP_H1812_A/index.html) (最終アクセス日 2018. 4. 30)
- 7) 安井利一. 社会の変化と歯科医学・歯科医療. 国際歯科学士会日本部会雑誌 2015 ; 46 : 46-50.
- 8) 文部科学省. 医学教育モデル・コア・カリキュラム (平成 28 年度改訂版), 歯学教育モデル・コア・カリキュラム (平成 28 年度改訂版) の公表について. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/033-2/toushin/1383962.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/033-2/toushin/1383962.htm) (最終アクセス日 2018. 4. 30)
- 9) 厚生労働省. 歯科医師臨床研修制度の概要. [http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/shikarinsyo/gaiyou/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/shikarinsyo/gaiyou/index.html) (最終アクセス日 2018. 4. 30).
- 10) 関 啓介, 紙本 篤, 萩原芳幸. 日本大学歯学部附属歯科病院歯科医師臨床研修プログラムにおけるインプラント治療実習. 日口腔インプラント会誌 2014 ; 27 : 346-352.
- 11) 兼田陽介, 仲井太心, 五十嵐博恵, 平田創一郎, 藤井一維, 他. 協力型臨床研修施設である歯科診療所の研修プログラムに関するアンケート調査. 日歯教誌 2012 ; 28 : 85-93.

#### 著者への連絡先

飯田 俊二  
〒060-8586 札幌市北区北 13 西 7  
北海道大学病院 口腔総合治療部  
TEL 011-706-4329  
E-mail : shu-iida@den.hokudai.ac.jp

## A trend of the resident in Hokkaido University Hospital after required dental clinical training

Shunji Iida<sup>1)</sup>, Saori Tanaka<sup>1)</sup>, Noriyuki Takashi<sup>1)</sup>  
and Satoshi Inoue<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> Division of General Dentistry, Center for Dental Clinics, Hokkaido University Hospital

<sup>2)</sup> Section for Clinical Education, Faculty of Dental Medicine, Hokkaido University

**Abstract :** Since 2006, dental resident system became a required subject and has been running for more than 10 years. This research investigated the situation of dental resident adoption to the Hokkaido University Hospital and the variation of course after one year residency from 2006 to 2015. Matching data showed four times full match past the decade. The rate of actual employment has been more than the rate of the national examination of the dentistry. Each resident was to belong to their divisions of choice and thoroughly dispersed in all divisions of Hokkaido University Hospital. Graduate school's distributions were mainly from Hokkaido University, but have been decreasing, while from other schools were increasing or equal. After one year residency period, their destinations were mostly graduate school (44%) and general practicing clinics (38%).

Competent students were employed as dental residents at Hokkaido University Hospital, meanwhile the rate of occupation of students that graduated from Hokkaido University was decreasing. After a residential period of one year, many students went to graduate school or general practitioner as a bipolarization.

**Key words :** dental clinical training, required resident system, post-resident course